



目 次

リスクに挑戦した技術開発	（神藤 宏）	1
研究の成果	新たに育成したスターチスオリジナル品種「EK04-07-1」	
	および「EK04-07-3」の特性	（小川大輔） 2
	ミスト散水処理によるトルコギキョウの高品質生産	（島 浩二） 3
	赤色光および遠赤色光による長日処理が実エンドウの開花に 及ぼす影響	（小谷真主） 4
お知らせ	平成22年度人事異動	4



トルコギキョウの散水処理状況



散水処理 無処理
ミスト散水効果（本文3頁）

リスクに挑戦した技術開発

農業試験場暖地園芸センター所長 神藤 宏

平成22年4月から、暖地園芸センターは農業試験場暖地園芸センターに改称され、新たに紀中・紀南の花き・野菜の中核機関としてスタートすることになりました。

当センターでは平成22年度の試験研究目標として‘オリジナル優良品種の育成と収益性の高い農業技術開発’をテーマに掲げ、当地域の立地条件に適応する花き・野菜の新技术開発をめざします。

花きでは、全国第1位の生産高を誇るスターチスを主体に、萼色のカラーバリエーションの拡大をめざし、紫やピンク色の新品種の育成やイオンビーム照射による優良変異体の作出など新しい育種法を活用した品種育成に取り組めます。

生産性の向上をめざした栽培管理技術開発では、スターチス培養苗の効率的生産技術の開発やヒートポンプを利用したトルコギキョウ等の安定的増収技術の開発等に取り組みます。

野菜では、豆類を主体に実エンドウでは短節間品種の育成、莢エンドウのキヌサヤでは小ほうの少ない品種の育成に取り組めます。

同様に、栽培管理技術開発では、実エンドウの秋まきハウス冬春どり栽培における早期枯れ上がりの発生要因の解明とその対策技術開発に取り組めます。

今後も研究員の一層の資質向上を図り、リスクを伴う挑戦的な研究をも意識しながら、現場の実情に合った研究開発を進めます。